

地域役員等によるワークショップ結果

(地域コミュニティの今後の在り方に関する調査研究)

1. 目的

大牟田市では、令和5年2月に「加入率低下」や「担い手不足」等に焦点を当てた「地域コミュニティの在り方に関する市民アンケート」を実施した。その回答の中から、「会費の徴収が負担」「コミュニティの弱体化により、活動が困難となっている」といったさまざまな現状と課題が見えてきたところである。

今回、こういった地域の状況を地域活動に携わる役員等が改めて共有し、その解決に向けたアイデアを出し合うことで、地域課題の解決の方策を模索するワークショップを行うもの。

2. 開催日・参加人数

【第1回】

- ① 令和5年5月20日(土)10:30～12:00 10人
- ② 令和5年5月30日(火)19:00～20:30 19人

【第2回】

- ① 令和5年6月20日(火)19:00～20:30 19人
- ② 令和5年6月24日(土)10:30～12:00 7人

3. 参加者内訳

【役職別】

まちづくり協議会会長等校区代表者	6人	
(前)まちづくり協議会会長	2人	
まちづくり協議会副会長	6人	
PTA会長	2人	
その他(町内公民館役員・PTA役員等)	13人	計30人

【年齢別】

30代	1人	60代	12人	
40代	4人	70代	8人	
50代	2人	80代	3人	計30人

4. 出された意見等

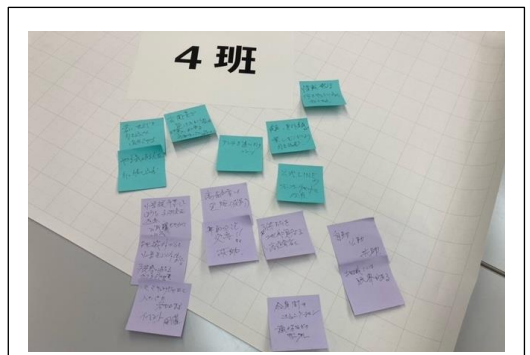
別紙①・②のとおり

5. 解決策各班発表取りまとめ

テーマ

①若い世代の参加を得るためのアイデア

- ・子ども会や子どもスポーツを取り入れることで親世代やおじいちゃん・おばあちゃん世代、2世代・3世代を入れていかないと若い人が入らないのではないかと。子どもを引き入れて何かしよう、子ども会で中学生までは何かに参加してもらおう、そういう行事をすることによって地域が活性化するのではないかと。
- ・まちづくり協議会で子どもを取り込んだ行事を実施して、親子で参加してくださいとすると取り込めるのではないかと。
- ・コミュニティに入っているメリット、コミュニティが地域に対してやっているメリットをきちんと皆さん伝える。見守り隊は有料でやっている訳ではなくボランティア、防犯灯も市の税金で点けているわけではなく、地域でお金を集めて点けている。ちゃんとメリットを受けていることを教える。分からなかったら防犯灯を消す。防犯灯の電気料は市で負担してほしいという意見もある。
- ・個別訪問でのお誘いは押し売りみたいで無駄なパワーばかりいる。そういうのではなく、自分が地域でやっていることを情報発信することが大事だと思う。町内公民館の行事をかわら版で毎月発行しています。町内公民館に入っている人だけではなく入っていない人にも配布しています。また、倉永校区ではくらなが祭を行ったが、そこでは若い方が大勢参加してくれた。高校生もボランティアで参加してくれた。そういうことをやりたいという子は結構いる。やりたい人を引っ張り上げる。やりたくない人を引っ張り上げても雰囲気が悪くなりマイナスにしかならない。また、役員やスタッフが楽しんでいる、その雰囲気を見せることで若い子たちはそこに引き込まれるのではないと思う。



②町内公民館・自治会から退会させないためのアイデア

- ・辞める理由として小学校を卒業して子ども会を抜けて町内公民館をぬけるということが多かった。神屋原公民館でも子ども会が解散したが、飲み会の際に子どもに昔あそびとかをさせたいという若いお父さんがいた。それで始めたのが「神屋原わんぱくクラブ」という会です。中身は子ども会と同じですけれども、その町内公民館だけじゃなく色々な所から参加できるようにしている。町内公民館から補助金も出しているが、1世帯500円を参加する世帯からは頂くようにもしている。そうめん流し・門松づくり・ハロウィン・芋ほりなどをしている。小学生だけじゃなく、小さい子、中学生でもいいようにしている。ママだけじゃなくパパも参加できるような環境を作る。

高齢者の方は役員を免除している。地域によっては年寄りばかりというところもあるので、そこは皆さんで支え合っていけばいいと思います。

あと、見守り隊であったり防犯灯であったりを情報発信することが大事だと思います。

・自然減なのでそれを止められるところはない。

そもそも自分達が必要とされていない、入る意義がないということであれば本当にやる必要があるのか？嫌がられながら訪問して勧誘して、回覧版回して、防犯灯代や館費を集金して、30年前に1軒入っただけ。誰も入っていない。

そもそも今の組織は本当に必要なのか？若い人たちは若い人たちでSNSを活用したり、地域に縛られない、今まであったような地域コミュニティじゃないコミュニティを持っている。

自助・共助・公助。自助は自分で頑張ります。共助が今自分達がやっていることだが先が無いのであれば、指針を私たちが出すのではなくて、公助の部分でそういったグループを作るのであれば市がきちんと援助しますよとか、そういった指針を出してもらわないと、私達では皆さん頑張って元気でいてねと祈るしかない。

必要でない組織は消えていくしかない。そうじゃないと頑張っている人が不幸になる。

・この班では、若い世代が多く子ども・学校・まち協との連絡は密に取れていて、これをいかにうまく続けて行くかが課題。高齢者になると金銭的な負担が多くなってくるので、それだけ負担が大きいのであれば公が補助してほしい。

・会員さん同士の繋がりが薄い。挨拶もなかなか無い、顔も分からないということもあるので、まず会員の方々のコミュニケーションを深めていく。そのために趣味の集まりを作っていく。それで公民館自体が楽しい場所だというふうにしていく。

あとは、町内公民館に入っていると色々な生活の問題が出てきたときに、町内公民館を通じて市と交渉をして解決してもらおう。個人で言ってもなかなか取り上げてもらえないということもあると思うので、公の場で相談を受けたら解決していくという町内公民館のメリットを知らせていく。

③デジタルの活用を進めるためのアイデア

- ・ラインを構築できるような詳しい人がいない。まず最初のところを勉強させてほしい。
- ・ラインで色々な情報を発信するにはルールが必要。
- ・校区の話、地区の話には若い人が必要。

④負担を軽くするためのアイデア

- ・ボランティアや清掃活動など負担を減らすためには、若い人が参加する。
- ・公民館の館費などの負担を減らすために、市からの補助金を増やしてほしい。役員等への報酬の一部を補助するなど検討してほしい。
- ・公民館長の負担が大きい。公民館長になるとまちづくり協議会の役員も兼務になる。公民館の中でも役割分担する。自分達から変わらないと次の担い手は探せないのではないか。